

「大坂の史跡を訪ねて」連載33回目

オサタニ ヨシハル
長谷 吉治

今回は大阪城を中心にまだ取り上げていない箇所をご紹介します。

1 豊国神社 (ほうこくじんじや)

大阪城

- ▶ 祭神は豊臣秀吉、秀頼、秀長です。秀吉の死後、豊国神社が創建され、朝廷から「豊国大明神」の神号と正一位が贈られました。大坂夏の陣後、家康が社領を没収し、社殿の修理を一切禁じたため、豊国神社は衰退していきました。明治になり再建が命じられます。明治12年(1879)、大阪の中之島に別社が建てられ、昭和36年(1961)大阪城内に移されました。



京都にある豊国神社は「とよくにじんじや」といいます。

2 豊臣秀吉像

大阪城

- ▶ 平成19年(2007)4月17日、祭神の一人である豊臣秀吉公を祀る豊国神社境内に豊臣秀吉の銅像が復元され、その除幕式が開かれました。かつて大阪市北区中之島に設置に同神社があった頃、豊臣秀吉像がありましたが、戦争のため供出。今回は、時代考証なども踏まえて、日本芸術院会員で五代友厚像などの作品で知られる中村晋也さんが建立しました。生まれ変わった銅像は高さ 5.2メートル(像 3.2m 台座 2m)です。



再建された豊臣秀吉像



先代の豊臣秀吉像

3 大阪砲兵工廠荷揚げ水門跡

大阪城

- ▶ 大阪城周辺は明治3年(1870)以降、大阪砲兵工廠という軍の兵器工場が次々と建てられ、昭和20年(1945)8月14日の大空襲により全壊する寸前では約6万人の従業員がいました。現在、大阪城ホールとなっている場所に大阪砲兵工廠本館がありましたが、その北側に荷揚げのための水門が第二寝屋川に面して作られました。第二寝屋川は寝屋川に合流し、やがて大川(旧淀川)に合流する川です。材料の搬入や製品の輸送を水運に頼っていたため、船が工場内に入出入りできるようこの地に水門を設け、荷揚げや積み込みを行っていました。



大阪砲兵工廠荷揚げ水門跡



水門の奥には大阪城ホールがあります

4 新鳴野橋

大阪城

- ▶ 平成元年3月に建てられた案内板には次の説明文が記載されています。

かつてこの地には鳴野橋と呼ばれた橋があった。初めて架けられた時期は明確でないが、豊臣氏の大坂城築城の後には、城と鳴野村が間にあったと推定される。

徳川時代には、この付近に京橋口御定番下屋敷や、その他の幕府の施設がおかれ「公儀橋十三ヶ所」の一つと定められた。また近くには弁財天の祠もあり、梅の花ざかりの頃は多くの人々で賑わったと言われている。

明治時代になって、この辺りは、大阪砲兵工廠の敷地となり、橋も軍の施設となったが、太平洋戦争後に大阪市へ引き継がれ、この間に新鳴野橋と改称された。廃墟と化した大阪砲兵工廠跡も大阪城公園と大阪ビジネスパークという新しい街として生まれ変わった昭和61年より、大阪府の河川改修事業の一環として、歴史と環境に調和した橋の工事が始められた。その竣工に際し由緒あるこの橋の由来をここに示すものである。 平成元年三月吉日 大阪府



5 青屋門

大阪城

- ▶ 青屋門は大坂城四門あるうちのひとつで元和6年(1620)頃創建されました。東北隅にある鬼門とされていた門で徳川期は通常閉まったままでした。門の外にある外堀には算盤橋という引橋(押し出し及び引き入れが自在の装置のある橋)が架かっていました。慶応4年(1868)1月、大坂城の大火の際、門・櫓・橋などが損傷し、昭和20年(1945)8月の大空襲で焼失しました。現在の門は、昭和45年(1970)に復元されたものです。青屋門の由来は石山本願寺があった頃、このあたりは青屋町と呼ばれていた可能性が高く、そこから名付けられたという説があります。



青屋門



算盤橋跡

6 大阪砲兵工廠本館跡

大阪城ホール

- ▶ 現在、大阪城ホールがある地は大阪砲兵工廠本館があったところです。大阪砲兵工廠は明治3年(1870)「造幣司」という名称で、大阪城三の丸米倉跡に設置されました。同5年(1872)「大砲製造所」、同8年(1875)「砲兵第二方面内砲兵支廠」、同12年(1879)「大阪砲兵工廠」と名称が変わりました。政府(陸軍)直属の兵器製造工場で、大砲、重兵器、爆弾、戦車などを製造していました。終戦直前では6万4千人近くがここで働いていました。終戦の前日である昭和20年(1945)8月14日の大空襲により、完全に破壊されました。



大阪砲兵工廠本館跡(大阪城ホール)

7 大阪砲兵工廠跡の碑

大阪城公園太陽の広場

- ▶ 前期紹介の大阪砲兵工廠跡の碑が、大阪城ホールから南西の位置にある太陽の広場の一角にあります。



大阪砲兵工廠跡の石碑は、ここ以外に公園森之宮団地の住宅内に建立されています。

アパッチ族

大阪砲兵工廠の焼跡地は、不発弾が多く危険という理由で放置されました。

そのため放置されていた膨大な金属資材、レール、起重機、鉄骨、パイプなど屑鉄泥棒が現れるようになりました。

通称「アパッチ族」といわれています。

昭和34年(1959)、開高健著の小説「日本三文オペラ」は、当時これらの人々を描き、「アパッチ族」が有名になりました。



公団森之宮団地内にある石碑

8 砲兵工廠診療所跡

大阪国際平和センター(ピースおおさか)

- ▶ 大阪砲兵工廠での労働者に事故など災害が多いのに対して、明治36年(1903)にこの地に診療所が建てられました。砲兵工廠診療所跡地には、現在、大阪国際平和センター(ピースおおさか)があります。



9 城中焼亡埋骨墳

大阪城

- ▶ 慶応4年(1868)1月6日夜、徳川慶喜はわずかの重臣を連れて大坂城を脱走し江戸へ向かい、多くの幕府軍兵は取り残されてしまいます。同年1月9日、新政府軍の先遣隊と幕府軍の両代表が大坂城の明け渡しについて交渉している最中、本丸御殿の大台所付近から火の手が上がり、次々と燃え移り翌日には城の大半が焼失しました。新政府軍の主力だった薩摩藩と長州藩は、燃える大坂城から逃げ出さずに自害した幕府軍の兵士を称えるため、この碑が建てられました。



薩州 長州 建立とあります

10 淀君の霊碑

大阪城

- ▶ 淀君は淀殿とも呼ばれ、近江の戦国大名・浅井長政の娘として生まれました。
母は織田信長の妹のお市。妹に初(常高院、京極高次夫人)と江(後に於江与、崇源院、徳川秀忠夫人)がいます。
天正16年(1588年)頃、豊臣秀吉の側室となります。
文禄2年(1593年)に秀頼(幼名:拾)を生み、秀吉死後は秀頼の後見人として豊臣政権の実権を握りました。
関ヶ原の合戦後、江戸幕府を開いた徳川家康と対立します。
慶長19年(1614)大坂冬の陣、慶長20年(1615)大坂夏の陣で徳川勢に敗れます。
大坂城落城の際、秀頼や大野治長らと共に自害したといわれています。



11 傷痍軍人の妻の碑

大阪国際平和センター北公衆トイレ前

- ▶ 傷痍軍人とは手や足を失って帰国した兵のことをいいます。
大阪府傷痍軍人会・同妻の会会員一同により建てられた碑文は次のとおりです。

永遠の平和を願って
人間にとって戦争ほど恐ろしいものはありません。
その苦しみや残酷さを知った戦傷病者とその妻が、
永遠の平和の願いをこめて植樹しこの碑を建てました。
どうかいつまでも知っていて下さい。



12 陸軍城南射撃場跡

大阪城公園においの広場

- ▶ 大阪城公園の「においの広場」は戦前、陸軍城南射撃場という建物がありました。石碑は広場の中ほどにあります。この建物は東西に長く、コンクリート製の体育館をいくつもつなぎあわせたようなものでした。在阪陸軍歩兵部隊の小銃・機関銃の実射射撃訓練をしていました。



13 明治紀念標跡

中央区大手前1-3-20(追手門学院大手前中・高等学校)

- ▶ はじめ中之島公園に建設されていたものを明治34年(1901)、現在の追手門学院大手前中・高等学校の西南角に移されました。古写真で見ると非常に高さのある塔です。戦時中に供出され現在は見るできません。

14 陸軍用地標石

中央区大手前1-3-20(追手門学院大手前中・高等学校)

- ▶ 追手門学院大手前中高等学校の西堀沿いの歩道に「陸軍」と記載された石標が残っています。



15 大阪陸軍病院跡

中央区大手前1-5-34

- ▶ 大手前病院と大阪歯科大学附属病院には、かつて大阪陸軍病院がありました。明治3年(1870)、日本で初の陸軍病院として「大阪衛戍病院」が創設されました。昭和11年(1936)に「大阪陸軍病院」と改称されています。その後、戦争の拡大に伴い、日本赤十字社の日赤病院や阿武山分院を陸軍病院分院とし、その他にも分院を設置しています。戦地から還った患者はこの病院に収容後、各分院に転送されました。収容患者が多くなり昭和20年(1945)、ここにある病院を大阪第1陸軍病院、堺の金岡にある病院を大阪第2陸軍病院と称するようになりました。大阪陸軍病院の正門石柱が大手前病院の構内に保存されていたそうですが、残念ながら撤去され現存しません。

大阪龍馬会20周年記念で「大阪史跡探訪ガイド」を出版する予定で、改めてまとめていると、会報やイベントで紹介できていない箇所がありましたので、取り上げました。次回以降もご期待ください。

大阪南部・和歌山史跡探訪について

大阪南部及び和歌山市内のコースですが、いろいろな史跡がある中で幕末維新関連、更には吉田松陰と勝海舟が訪れた地を中心にまわりたいと考えています。特にガイドブックに載っていない箇所が多く、地元の人にも知らない箇所がありますので、ぜひご期待いただきたいと思います。